

LGBTだけでない性の多様性を考える

政策調査部 課長補佐 鄭美沙(ていみさ)

全ての人に関係するSOGI(ソジ)

近年、LGBTという言葉は日常的に見聞きされ、性的マイノリティを表す呼称として定着しつつあると思います。企業もダイバーシティ・マネジメントの一貫として、LGBTに関する取り組みを積極的に進め始めています(資料1)。そうした中、LGBTが性の多様性の一部を表したものであることから、より包括的な概念としてLGBTQやSOGIという言葉も広がっています(資料2)。

LGBTは、例えば「トランスジェンダー」といったある特定の主体に注目しています。一方、SOGIとは、好きになる・ならない対象を示す「性的指向」と、自分が認識している性である「性自認」という特徴・要素を指しており、全ての人に関係のある概念です。性表現と身体の性を加えたSOGIESCという言葉もあります。LGBTも、実際には4つに当てはまらない人も含んだ「性的マイノリティの総称」として使用されているため、頭文字に引っ張られず、広い意味で捉える必要があります。

男性／女性に捉われない多様な性のありよう

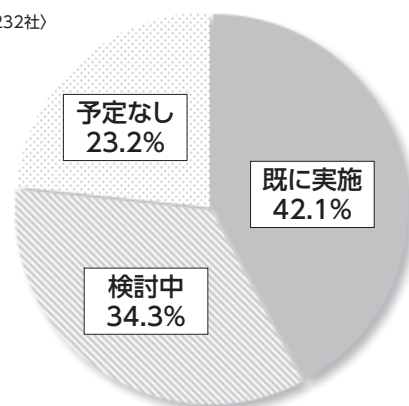
性的指向(SO)とは、異性愛・両性愛ではありません。恋愛感情や性的関心が生じないアセクシュアルやノンセクシュアルなども含まれています。性自認(GI)も男性と女性の二択ではなく、そのどちらでもない「Xジェンダー」や、男性と女性が流動的に変わる人もいます。また、性自認と身体の性が異なる人が、必ずしも身体の性を性自認に合わせたいと思っている訳でもありません。

このように性が非常に多様であることを考えると、男性／女性の二つのカテゴリーのみに分けられている社会は不自然にも感じます。既にカナダなどの国では、公的書類の性別欄で「X」を選択できるようになっています。「性別、性的指向による差別禁止」はオリンピック憲章にも盛り込まれています(資料3)。2020年までに、日本社会全体で多様な性のありようについて改めて考えていきたいです。

資料1 企業のLGBTへの取り組み

LGBTに関して、何らかの取り組みを実施しているか

(回答数：232社)



(出所)経団連「LGBTへの企業の取り組みに関するアンケート調査結果」(2017年)

資料2 LGBTQとSOGI

LGBTQ	レズビアン(L)、ゲイ(G)、 バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)、 クィア/クエスチョニング(Q)※
SOGI	性的指向 (Sexual Orientation) 性自認 (Gender Identity) 例)「性的指向は男性、性自認は女性」
SOGIESC	性表現 (Gender Expression) 身体の性 (Sex Characteristics)

※LGBTの定義に該当しない性的マイノリティ、性的指向や性自認が定まっていない人。

(出所)筆者作成

資料3 オリンピック憲章

オリンピックの根本原則 第6項

このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない

※性的指向は2014年に新たに盛り込まれた。

(出所)日本オリンピック委員会「オリンピック憲章2017年版」